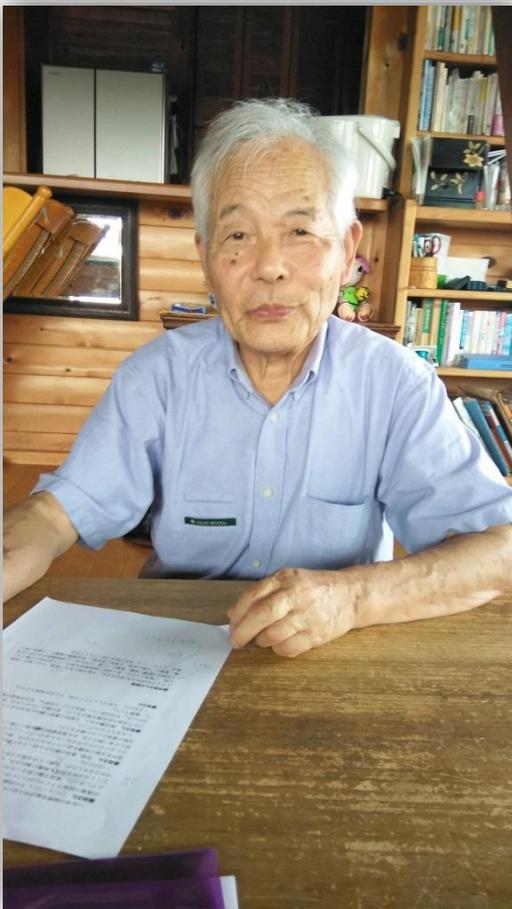


# 東京と津，3度の空襲に遭う

## 藤田 明 さんに インタビュー



予定していた今年の「市民の会」第12回総会は、コロナ禍を考慮して文書送付による議案承認に替えさせていただきました。このため、三重文学協会会長、藤田明さんの記念講演も中止を余儀なくされました。そこで、藤田さんのインタビューを企画。東京大空襲に遭い、続いて疎開先の津市の空襲で命を失うところだった体験などを聞かせてもらいました。

——東京と津，計3度の空襲を体験されたそうですね。

**藤田さん** 東京・小石川で生まれ育ち、1944（昭和19）年、小学6年のとき、空襲を避けて宮城県に学童疎開しました。翌20年、卒業も近づき東京に戻った数日後の3月10日、大量の死者を出した東京大空襲を目撃しました。父親が務める学校の官舎は小石川の高台にあり、夜8時ごろか、空襲警報があつて防空壕に入りました。B29の爆音が止むごとに顔を出すと、後樂園をはさんで深川などの下町一帯が炎に包まれているのを見ました。

——それから一家で津へ。

**藤田さん** 親たちは2月ごろからこのままでは東京は危ないと考えはじめていたと思います。父はしばらく東京に残りましたが、母、私、3人の妹の5人は祖母の住む津市へ疎開しました。私も事前に大八車の後押しをし、2回にわたって荷物を駅へ運びましたが、焼失したのか、届かないままになってしまいました。東京駅から鳥羽行の夜行列車に乗りました。20年の3月17日か18日です。5時間位前に駅に着いたのですが、超満員で座れず、通路もデッキもいっぱい。トイレ近くで立つ一夜。夜明けごろ名古屋駅に近づき、一面焼け野原、煙も各所に、という光景を見てびっくりしました。名古屋で多くの人が降り、やっと座れた。津市の中心部近くにあった祖母の家に落ち着きました。が、10日余りして祖母は老衰で亡くなった。4月、旧制津中学に入学しました。

——ところが、今度は津で。

藤田さん 夏休みに入るあたりの7月24日午前11時半ごろ、突然、爆音がして、家にいた私、母、妹の5人はとっさに押し入れに飛び込んだ。2段の押し入れの下段の左側に隙間があってそこにもぐった。爆音、爆風の音が止み、10分くらいしてふすまを開けたら、屋根がすっ飛んで青天井。柱は倒れ、梁は落ちかけていたが、不思議にも押し入れだけは残った。爆風にやられたのですが、間一髪で命拾いしました。庭の防空壕にたどり着けていたら、生き埋めで即死だったはず。しばらくして近所からの火が移り、家は完全に焼けてしまいました。

——さらにまた。

藤田さん そして4日後の夜にはまた米機猛爆。仮住居から津市の西郊、片田の知り合いの農家を頼って徒歩1時間ほど、焼夷弾落下が連続する中での逃避行でした。大おばは阿漕から久居へ向かう途中で直撃され、火だるまとなって死んだ、とあとで耳にしました。

——話は戻りますが、宮城県に学童疎開したときのことを教えてください。

藤田さん 小学6年のときの集団疎開のことはよく覚えています。4年生以上の3学年が宮城県加美町に疎開しました。バツハホールで有名になった町です。計100人余りは3つのグループに分かれ、私たちは禅宗のお寺に寝泊まりし、そこで少しは授業を受けましたが、集団生活を何より体験したのでした。土地の人たちは餅や枝豆をくださるなど親切でした。地元の学校に入ったわけではないので、地域の子もたちにいじめられたりはありませんし、戦後も親しくしてもらえる方がいて、今も交流は続いています。

——まあ、楽しく過ごした面もある感じですね。

藤田さん しかし、同級生の中で一つだけいじめがありました。父親が海軍の技師でドイツに行っていたのですが、帰国する船が米軍にやられて死の報が入った。ある軍国少年が米軍にやられたことを怒り、父親を亡くした少年を物置に連れ込み、殴ったとか。先生が気付きやめさせましたが、あとから思うと、私たちはいじめを阻止できなかった。気になる思い出です。

——ほかには。

藤田さん 当時、東京の親元から送ってきた菓子類はすべて没収されました。私も母が送ってくれたきな粉と砂糖がそうになりました。ある子とない子の不公平があったらまずいということでしょう。ところが、その没収した食品などを、ある軍国教師が持って帰っていた、と戦後もつき合いの続いた当時の寮母さんから聞きました。

——8月15日はどこで。

藤田さん 片田の次には七栗村の農家の離れに住まわせてもらい、その家のラジオで玉音放送を聞きました。音は聴きづらかったが、負けたらしいなと分かった。半分は悲しい、残念だという気持ち。半分は希望が湧くような気持ち。複雑でした。



—それから、今年でちょうど75年。どんなお気持ちですか。

藤田さん 高校の教師時代、教室で戦争のことはさほど話さなかった。短大を退いた2003年ころから、敗戦前後のことが蘇る日々が多くなってきました。世の中、どんどん悪くなっている。昨今の政権で極まった。都会の空気も吸って育ちましたが、それがじわじわ、ファシズムに移った。コロナ自粛でバッシングが起きるなど雲行きが怪しくなっている。平穏な生活がいつの間にかファシズムにも通じる道、いつか来た道へ移ることのないよう願っています。

### 藤田 明 さんの略歴

1933（昭和8）年東京生まれ。大戦末期に東北へ学童疎開、さらに津市へ疎開、以後、三重県人になる。長く高校で国語教師を務め、のち高田短大で教えた。映画や文学関係で各紙などに連載。著書に「三重・文学を歩く」「平野の思想 小津安二郎私論」ほか。来年の総会の記念講演で「小津安二郎と戦争、竹内浩三そして……」という仮題で話してもらう予定。



## 亀山の戦争遺跡マップができる 市民グループと市が協働

鈴鹿市に隣接する亀山市にも多くの戦争遺跡があります。その戦争遺跡マップを、市民と亀山市が協力して作成しました。A2版十字折りの市の地図に、15か所の戦争遺跡の位置を示し、写真もつけて解説を添えています。

つくったのは、市民グループ「戦争遺跡に平和を学ぶ亀山の会」と、亀山市生活文化部文化スポーツ課と市歴史博物館。制作費用は市が負担し、5千部印刷。歴史博物館やJR関駅にある観光協会などで無料でもらえるそうです。

一番大きな軍事施設は、陸軍北伊勢飛行場。終戦後、飛行場跡地は能褒野開拓団の手で開墾され、本部の建物は川崎小学校になり当時の正門が残っています。川崎町一色公民館は当時の兵舎を移築したもの。格納庫の基礎の一部も民有地に残っています。2003年、国の登録有形文化財に指定された鈴鹿市三畑町のコンクリート製掩体もマップに載せています。

関町には鈴鹿海軍工廠の地下工場がありました。戦争末期、空襲を避けるため造られたものです。同町の観音山と大黒山との谷の両側に7本ずつ地下壕を掘りました。1945（昭和20）年4月から、完成した地下壕に機械を運び入れて機銃を作っていました。わずか3カ月の操業で終戦を迎えました。地下壕のほか、周辺にはボイラーの煙突、コンクリート製の地下水槽などが残っています。

敗戦の年の8月2日お昼過ぎ、亀山駅を出発した鳥羽行の列車が米軍の小型機2機の機銃掃射を受けました。機関士は直撃を受けて即死、多くの乗客が死傷しました。現場近くの中村公民館に立てた説明版の写真とともに、その銃撃についてくわしく記載しています。



鈴鹿海軍工廠関防空工場（関の地下工場）



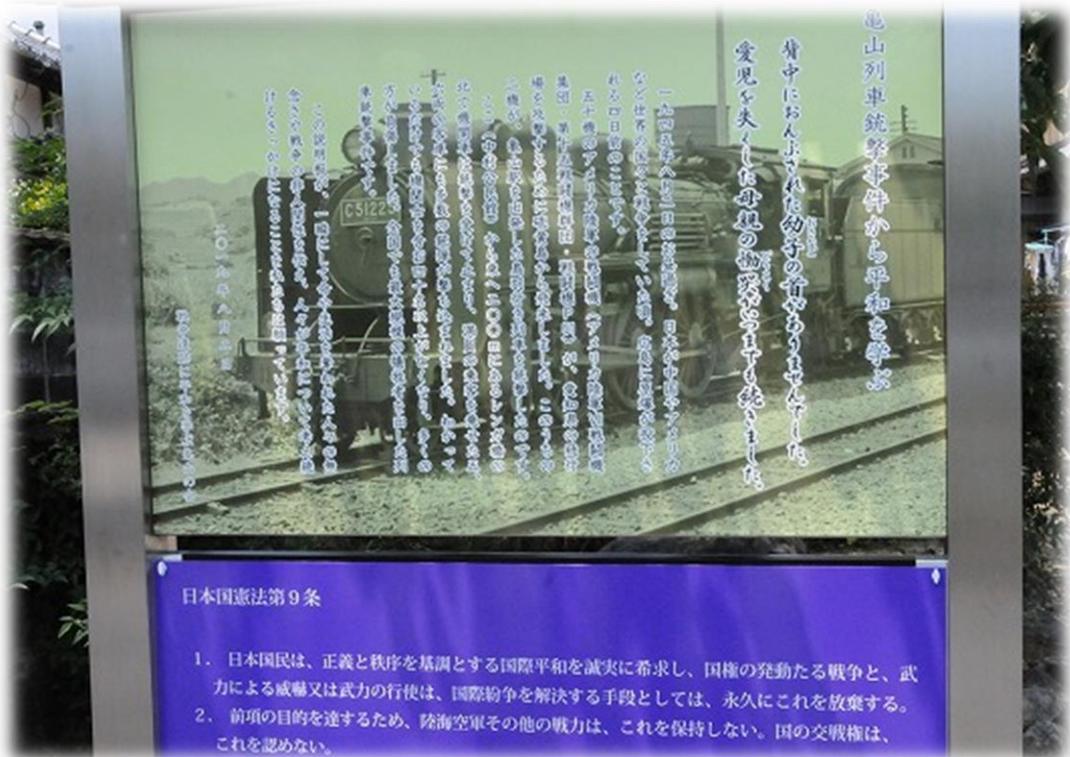
辺法寺町、不動院下の陸軍の地下工場



白木町にある民間防空壕



川崎町一色公民館。飛行場の兵舎を移築した



中村公民館に立てられた亀山列車銃撃説明板

# コロナ禍で 桜の森公園 春まつり を中止！

新型コロナウイルスが世界で猛威をふるい、日本も脅かされることになったため、3月28日に予定していた「第3回 桜の森公園・春まつり ～広がれ平和の輪～」は大事をとって中止いたしました。

今回は公園に隣接する鈴鹿医療科学大学の吹奏楽部にオープニング演奏をしてもらうほか、戦争と平和について考える学生たちとのトークショーを企画。子どもたちの空に舞う遊びや飲食屋台村も一層充実させるつもりでした。

残念ながら、そっくり来年2021年3月27日（土）に持ち越します。



# 戦争遺跡 親子見学会 も中止！



今年で7回目となる戦争遺跡親子見学会はやはりコロナ禍を考慮して中止することにしました。夏休みの子どもの自由研究の材料にもしてもらってききましたが、今回は見送ります。

来年はぜひ開催できるようにしたいと思います。



## 今後の予定



「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」

ユネスコ憲章 前文より

# 風の街の文化祭 10月18日 鈴鹿ハンター

鈴鹿ハンターでの恒例の「風の街の文化祭」は10月18日（日）に開かれます。戦争遺跡の写真パネルを展示して参加する予定です。

# 戦争遺跡 市民見学会 を再開 11月 と 来年2月に

しばらく中断していた戦争遺跡市民見学会を今年度から再開します。

まず、市制記念日の講演会に併せて11月29日(日)、鈴鹿海軍航空隊、鈴鹿海軍工廠など旧海軍の戦争遺跡を見学します。見学のあと、格納庫の部材を保管してもらっている森田英治さん(鈴鹿市安塚町)方で講演会を開きます。

2回目は来年2月14日(日)を予定。最近全容が判明して測量もされた石薬師の射撃場ほか、鈴鹿陸軍飛行場(椿秘匿飛行場)の誘導路、掩体など旧陸軍関係の施設を回る計画です。



## 平和への祈り展 11月6~8日 イオンホール

鈴鹿市主催の「平和への祈り展」は11月6~8日、イオンモール鈴鹿のイオンホールで開く予定です。映画「この世界の片隅に」の作者、こうの史代さんの「夕凧の街 桜の園」の原画パネル展をするそうです。市民の会も市民実行委員会の一員として戦争遺跡の写真パネルを展示する予定です。

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△

|    |                        |
|----|------------------------|
| 発行 | 鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会 |
| 代表 | 竹内 宏行・中森 成行            |

〒510-0254 鈴鹿市寺家 1-2-47  
電話 059-388-6508・090-2772-1476  
Mail ta818hi@mecha.ne.jp

△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△